

第 199 回広島大学平和科学研究センター研究会

開沼 博 氏 福島大学うつくしまふくしま 未来支援センター

「歴史的危機に学問はいかに向き合うべきか
福島学構築プロジェクトの実践から」(仮)

日時： 2014年8月4日(月)

15:00~17:00

会場： 広島大学東千田キャンパス

総合校舎A棟 302号室

司会： 友次 晋介 (平和科学研究センター 准教授)

『「フクシマ」論 原子カムラはなぜ生まれたのか』で第 65 回毎日出版文化賞(人文・社会部門)及び第 32 回エネルギーフォーラム賞特別賞を受賞した気鋭の社会学者、開沼博氏をお呼びして研究会を開催いたします。今回は、開沼氏が進める『福島学構築プロジェクト』についてお話しいただきます。

開沼博氏の経歴・プロフィール

- ・ 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員(2012-)。
- ・ 読売新聞読書委員 (2013-)。
- ・ 復興庁東日本大震災生活復興プロジェクト委員 (2013-2014)。
- ・ 経済産業省資源エネルギー庁総合資源エネルギー調査会
原子力小委員会委員 (2014-)。



1984年福島県いわき市生まれ。東京大学文学部卒。同大学院学際情報学府修士課程修了。現在、同博士課程在籍。専攻は社会学。著書に『漂白される社会』(ダイヤモンド社)『フクシマの正義 「日本の変わらなさ」との闘い』(幻冬舎)『「フクシマ」論 原子カムラはなぜ生まれたのか』(青土社)『地方の論理 フクシマから考える日本の未来』(同、佐藤栄佐久氏との共著)『「原発避難」論 避難の実像からセカンドタウン、故郷再生まで』(明石書店、編著)など。学術誌の他、「文藝春秋」「AERA」などの媒体にルポ・評論・書評などを執筆。

第 65 回毎日出版文化賞人文・社会部門。第 32 回エネルギーフォーラム賞特別賞。